

平成27年度第2回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成27年9月22日（火・祝）
午前9時～午後4時

場 所：市民参画センター グループ活動室

出席者：審査委員 清藤委員長、土井委員、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、兼平委員、西川委員、花松委員、佐藤委員、川村委員、齋藤（紀）委員、前田委員、宮川委員、高森委員、木田委員
市民協働政策課 三上補佐、櫻庭主幹、對馬係長、長谷川主査、阿保主事
成田主事、神主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

<プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションへの参加を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、申請書類と事務局の事業説明により審査を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度
（7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答。）
2. 審査 …20分程度
（事業内容・金額について審議後、採点表に記入。）
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表。

（公開プレゼンテーション無）

申請団体によるプレゼンテーションを省略し、1事業につき15分程度とする。

【審査項目】

審 査 項 目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている

実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

【審査採点】

区 分	評 価
高く評価できる	10点
「高く評価できる」と「普通」の間の評価	8点
普通	6点
「普通」と「あまり評価できない」の間の評価	4点
あまり評価できない	2点
評価できない	0点

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

●17：トレイルランニングの普及と指導者養成／岩木山トレイルランニング実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年1%システムを利用し、今年は独自で開催した大会と、今回の指導者養成事業との関係性について教えていただきたい。

A：大会の参加者は、昨年よりも今年の方が増えているが、企画段階から大会の準備、当日の運営、大会終了後のフォローといった部分に携わる人間がとても少ないと感じている。大会に参加するランナーは増えているが、運営サイドに立つ流れがまだできていないので、大会に何度か出場するうちの1回は運営側として参加するような流れを作っていきたいと思っている。

Q：1%システムの補助金を来年度以降は要望しない予定とあるが、資金の工面方法について教えていただきたい。

A：いつまでも補助金を受けられるものではないという認識があるので、今年事業を実施して、多くの人に興味を持ってもらい、参加費をより多く集めて運営していこうと考えている。

Q：事業の目的の中に「地域活性化」とあるが、特に県外からの参加者に向けて、弘前により愛着を持ってもらえるようなプログラムを将来行っていく予定はあるか。

A：現時点で行っていることとして、イベントを実施するときには必ず、地域にある温泉

の入浴券を付けて温泉に入っている様子も、地域の食を紹介している。また、大会の中では、走っている途中で補給するものを地元のものにするように工夫をしている。

Q：今回の指導者養成の講習会等に参加した人を、どのように運営側に取り込もうと考えているか教えていただきたい。

A：講習会や練習会に参加した人たちの中で、運営することの楽しさなどを情報発信しながら、来年の大会で運営側に立っていただくように呼びかけをしていきたい。

【主な意見】

- ・この事業を継続していけば、市内の指導者が育っていき、育った指導者が市外の団体に講師として招かれるなど、どんどん展開していけると思う。大会そのものを事業申請するのではなく、指導者の育成とされていることが、ステップアップになっていると思う。
- ・みんな参加者として走りたいはずだが、運営する側に回らないと大会自体が継続できなくなっていくという分岐点がある中で、どのように運営側に関わる人を増やしていくかが課題だと思う。スタッフとして参加することで、自分のスキルアップや、スタッフ側のスキルアップと考えれば、この事業はとてもいい機会になると思う。
- ・岩木山を会場に事業を実施している団体はほかにもあるので、いずれは協力して事業ができるようになれば、参加する年齢層などの幅も広がっていく可能性も考えられる。
- ・いずれは自立して事業を行わなくてはならないから継続申請をしないというのではなく、今後もステップアップをしていく事業であれば、継続申請することも考えていただきたい。

【採択結果】

合計点 78.7点 \geq 60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 15名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		78.7

●6：イキイキ健康クラブスマイル／イキイキ健康クラブスマイル

【質疑応答（抜粋）】

Q：参加する人を増やすために考えている方法を教えていただきたい。

A：会を立ち上げるときに、各地域の民生委員や町会長に、事業の説明をして参加希望者がいたら知らせてもらえるようお願いした。これからヒロロの健康広場やまちなか情報センターなど公共施設にチラシを置き、広く働きかけていきたいと考えている。

Q：現在の会場は、収容人数が少なく、事業所を使っていることから一般の人には入りづらい印象を受けたが、今後活動を広めていくにあたって、会場の設定についてどのように考えているか。

A：今回は予算の関係上、会場を無料で借りられていることもあり、今まで実施してきた会場で実施することにした。参加人数が増え、予算も対象経費として認められれば、広い会場を使っていくことも考えていくか、現在は週1回の実施だが、実施する回数を増やしていくなどの検討をしたい。

【主な意見】

- ・年間の計画の中に、毎週の運動による体の健康だけでなく、教養講座を入れての心の健康に着目していることは評価するが、運動は年間を通して複数の講師に頼んでみたり、教養講座は人材バンクに登録されている人にも頼んでみたりなど、仲間内で固まらないように工夫をしていただきたい。
- ・同じような活動をしている団体に声を掛け、合同で活動をPRして、参加者に好きな時間や場所を選んでもらうようにすると、より効果が高まると感じた。また、年に1度でも、団体同士が集まることで、輪が広がっていくと思う。
- ・高齢者の生きがいづくりは大きな課題である一方、担い手が少ないのが現状なので、このように生きがいづくりに取り組んでいることは非常に良いことだと思う。同じような活動をしている人たちがこの動きを見て、今後1%システムを活用するなど、動きが活発になって欲しい。
- ・運動が終わった後の意見交換の時間も、事業の中の重要な部分であるため、1回に受け入れる人数があまり多すぎると、個々にコミュニケーションが取りづらくなり、効果が薄らいでしまうと思う。事業の効果を考えると、参加者が入りやすい、同じような規模の会場で実施していただきたい。

【採択結果】

合計点 66.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.3
合計		66.5

● 2：子どもの健康づくり事業／美育・食育 はなか

【質疑応答 (抜粋)】

Q：これまで活動してきて見つかった課題を教えてください。

A：自分たちだけで活動していると、広報が難しいと考えており、今後の発展に向けて「広報ひろさき」への掲載を依頼するなど、広報活動に力を入れたいと思っている。また、現在の会員数では足りないので、積極的に声掛けをしているところである。

Q：これまでの活動と1%システムを活用しての活動の違いや、工夫しようとしていることを教えてください。

A：今までは、お花やお茶、料理教室などを一緒にたに実施していたが、今年度は、1回につき、1つのテーマに的を絞って取り組んでいく。興味がある内容の時だけの参加が可能になり、集中的に取り組んでもらえるので、今までよりも大きな効果が得られるのではないかと考えている。また、会場の許す限り、参加したい子どもたちを受け入れられるように準備している。

Q：自分の子どもが活動のきっかけとあるが、子供が成長したあとも活動を続けていく予定か。

A：これまではサークルのようなかたちで活動してきたが、自分の子どもや子どもの友達のためではなく、これからは参加してみたいという子どもたちは誰でも受け入れていきたいと思っている。

Q：地場産品を活用することも地域活性化につながっていくと思うが、弘前産の食材を使うことなどは考えているか。

A：食育は、野菜など、地場産品のものについて「学ぶ」、健康についてのチェックシート

を使って「測る」、作ったもの「食べる」の3本柱で、健康に密着した活動に展開していきたい。そのため、地場産品を積極的に取り入れていきたいと考えている。

【主な意見】

- ・子どもたちに向けた活動を学校が知らないよりは、学校側にも理解してもらったほうが、活動がスムーズに行えると思う。
- ・活動が始まったばかりの時期に学校にアピールするよりは、まずは自分たちの活動を曲げずに一生懸命行っていくことが大事であって、活動を続けていくうちに、それらが認められるようになればいいと思う。
- ・子どもたちがどのような状況なのかを把握し、学童保育などの組織と一緒に事業を組み立てていくと、より効果が高まるのではないかと思う。地域の人とのつながりなど、社会的な関係も経験することができるので、地域を限定して行うのも一つの方法だと思う。
- ・子どもたちを育てる一つのツールとして、このような活動が学区ごとなど、いろいろなところに広がっていったらいいと思う。

【採択結果】

合計点 68.9 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.7
合計		68.9

● 10：心も身体も健やかに。ヨガと食のミニセミナーのイベント／津軽美人プロジェクト

【質疑応答（抜粋）】

Q：女性がアクションしやすい場を提供することが目的とあるが、現状をどのようにとらえているか教えていただきたい。

A：津軽では、既に女性が生き生きと生活していて、素敵な女性がたくさんいるが、一歩が踏み出せずにいる女性も目にしてきた。女性が1人でアクションを起こすことはとても勇気があることだと思うが、同じような興味を持った人や、同じような気持ちの人がアド

バイスをし合ったり、つながりあったりすることによって、何か新しいことが起こせるような場を作りたいと考えている。

Q：ヨガと食のセミナーに、合計で150名の参加者を見込んでいるが、参加者を集めるための工夫があれば教えていただきたい。

A：ポスター・チラシを、市内の女性が集まりそうなお店などに設置するほか、Facebookやインターネットを活用して告知し、たくさんの方に参加してもらえるようにしたい。

Q：今年度実施するイベントを、今後の展開にどのように結び付けていこうと考えているか教えていただきたい。

A：次年度については、メンバーで話し合っているところだが、既存のイベントに協力し、より女性がアクションしやすくなるような企画を考えていきたいと思っている。

【主な意見】

- ・周知について、女性が集まりそうな場として、例えば保育園や市役所の子育て支援課などにチラシを置いたり、情報提供したりして、情報がより多くの人に届くように、いろんな方面からアプローチして欲しいと思う。
- ・団体のメンバーの持っている能力や人材を生かしながら、まちを盛り上げようという考えは非常に良いと思うので、一步踏み出せずにいる人たちへの具体的なアプローチの仕方を考えて、これからの活動を展開していただきたい。
- ・これまで1%システムに採択された団体の中にも、女性が活躍する団体がたくさんあるので、実際に女性が活動している団体と連携して動いていくことも、今後の展望として考えていただきたい。

【採択結果】

合計点 70.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.8
合 計		70.4

● 14：文化周知のためのイベント開催／ういつちたいむ!!実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q：ヒロロを会場にする場合、フロアが分かれてしまうことによって、別の会場で行っていることがわかりづらくなると思うが、何か対策を考えているか。

A：メイン会場は4階ホールだが、メイン会場以外にもヒロロの様々な所にコンテンツを置きたいと考えている。参加者やヒロロの人にも協力してもらい、イベント参加者とそうでない人が混ざり合えるような、館内の回遊性を意識したイベント作りをしたい。

Q：会場をヒロロにしたことで見込まれる効果について教えていただきたい。

A：興味がない人に参加してもらうことは難しいが、ヒロロを会場にするすることで、買い物客が、買い物をした流れでイベントにも顔を出すことや、メイン会場以外の場所で買い物をするコスプレイヤーもいるので、ポップカルチャーに不意に遭遇する機会を生み出すことが期待できる。

Q：コスプレと古都ひろさきの結び付け方について、どのように考えているか教えていただきたい。

A：近年、日本古来のものをポップテイストに表したことで、若い層が興味を持つ例がある。重要なのは、弘前は和洋の文化が折衷している土地柄で、市外のコスプレイヤーにも人気があるということ、地元の人が認識した上で、受け入れることだと思う。より多くの人が弘前にまた来たいと思ってもらえるようなまちづくりとして、ポップカルチャーの視点から、啓発していきたい。

【主な意見】

- ・メイン会場が一番奥になってしまうので、会場の情報などを上手く発信できるようにし

ていただきたい。

- ・地域にしながら最前線の情報が手に入る数少ない場として捉えると、この地域の子どもたちへの夢を与え、それが現実となるということを伝えながら、コスプレイヤーがまちに集まることを受け入れるような市民を一人でも多く育ててほしいので、今後も継続していただきたい。
- ・例えば津軽塗やブナコといった弘前の伝統文化とのコラボや、神社の絵馬にキャラクターを付けるなど、異業種と連携を図っていくことで、大いに可能性が見いだせると思う。
- ・アニメを使ったまちづくりをしているまちは他にもあるが、弘前には、地元の企業やお店や伝統工芸があり、地元の人たちでお土産など関連産業を生み出せる環境があることが強みだと思う。

【採択結果】

合計点 74.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.1
合計		74.4

● 1 : HIROSAKI STREET 2nd /HIROSAKI STREET 実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q : 屋外でのイベントだが、雨天時は実施する予定か。

A : 雨天決行の予定である。

Q : 前回開催したときの資金はどのように工面したのか。

A : 去年は、たくさんのメーカーから協賛品をもらうことができ、全て自己資金で行った。今後事業を続けていくために、ストリート文化に興味をもった企業にスポンサーになってもらい、作製した動画を流す時に、エンドロールにスポンサー名を入れるなど、お互い

win-win な関係になれるように、協賛金を募っていく方法も考えている。

Q：蓬莱広場を会場に 3on3 やダンスを行うと、道路に面していることから交通の面などで危険が伴うことも想定されるが、どのような対策を立てているか。また、スタッフだけですべてに手が行き届くのか。

A：昨年のイベント実施後に、次回へ向けての安全対策等の話し合いに参加しているスタッフや、普段から直接話し合える人が集まって、今年のイベントを実施する。団体に確実な信用というものができていないため、すべてをボランティアスタッフだけで運営できず、今回は人件費を計上している。

【主な意見】

- ・今年事業を行うことで、しっかり団体を認知してもらい、今後はボランティアなどを組み入れながら輪を広げていっていただきたい。
- ・ストリート系のイベントの中で、今までスポーツが少なかった。これから様々な人を巻き込んでいけば、活性化につなげることができると思う。
- ・アンダーグラウンドなイメージが強いストリート系のイベントだが、小さな子どもが参加することで、高齢者の見物者が多いことがある。想定できなかった良い結果が生まれることもあるので、主催者側が治安やマナーの向上に積極的に力を入れて、信用を勝ち取っていただきたい。

【採択結果】

合計点 78.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.6
合計		78.1

● 15 : コミュニティシネマ事業「harappa 映画館」 / NPO 法人 harappa

【質疑応答 (抜粋)】

Q : harappa 映画館で、子どもたちを巻き込むために、何か行っていることがあれば教えていただきたい。

A : harappa 映画館とは別事業で、「子ども映画館」というものを実施しており、子供向けの映画作品を3本上映した。子ども映画館は、harappa 映画館を継続して行ってきたことにより、実施に至った事業である。

Q : 映画を見終わったあとに、参加者が交流したり、感想を述べ合って情報を共有するような工夫があれば教えていただきたい。

A : 前回、上映した作品の監督に来ていただいて、映画を撮影したときの様子など様々な話をしてもらい、それに対する意見が会場の参加者からたくさん出た。監督を呼ばない場合でも、映画の感想を話し合える場を作りたいと考えている。

Q : 今年度の事業では、函館を舞台とした映画やフランスと、テーマを絞って映画を上映する予定だが、このようにテーマを中心に置くことによってつながることができた人材と、今後の活動において、どのような関わり方をしていこうと考えているか。

A : 今回のフランス映画特集では、フランスに関連する活動を行っている団体や学生に声掛けをして、広報面や活動紹介などの面で協力してもらおう予定である。今後も、情報の発信という面で協力してもらいたいと思う。

【主な意見】

- ・将来的には、中心市街地が衰退していっているとか、まちを盛り上げるような題材に扱った映画を上映してみるのも面白いと思う。
- ・ただ映画を上映するのではなく、実際に作品を作り上げた監督の生の声を聞くことができるティーチインやトークセッションがあると、参加者への影響も大きくなると思う。
- ・多様な映画を市民に提供するという目的のためにも、中心市街地だけでなく郊外に出向いて映画を見てもらおうような環境づくりをするなど、少しずつ事業の展開の仕方を変えることも検討していただきたい。

【採択結果】

合計点 73.6 点 \geq 60.0 点 ⇒採択 (申請額どおり)

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.1
合計		73.6

● 16 : 岩木山南麓豪雪まつり／岩木山観光協会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 岩木地区の人たちの参加状況を教えていただきたい。

A : スノーウォークは岩木山観光協会に所属する指導員、雪の巨大滑り台は青少年スポーツセンターで実施し、今年度はスカイラインにも巨大滑り台を作る方向で交渉している。旧市内からも、スノーモービル体験などを行ってくれる人など、岩木山が好きで集まっているメンバーが増えており、来年度は自立して事業を実施できると考えている。

Q : 体験料や参加料は、今後も無料で行う予定か。

A : スノーモービルやジムニーの体験を担当している人たちは、事故が起きないように、レベルの高い人を起用しており、客の安全対策のためには経費がかかるので、時期は未定だが、今後は体験料を取っていきたいと考えている。

Q : 嶽地区の活性化をねらって、観光協会のみなさんは一生懸命になっているが、その他の団体が消極的だと、将来性が明るく見えない感じがするが、どのように考えているか。

A : 宿泊をメインに実施したときは、どう進めていけばいいか見えなかったが、スポーツという方向に切り替えたことで、協力してくれる団体も増え、最終的には年中いろいろなことをやっているという発信をしたいと考えている。

【主な意見】

- ・ 400メートルのすべり台や、雪の中でのキャンプファイヤーなど、雪に馴染みがない人にとって、大変魅力のあるコンテンツであるということを、意識していただきたい。
- ・ 地元の人たちは、主催者側がいろいろ工夫しても、冬は寒くて外に出たくないという人が多いと思うので、雪を珍しがる県外や海外の人の誘客にも力を入れていただきたい。

- ・前回からスノーウォークを取り入れるなど、イベントの中身にスポーツを取り入れたことで、少しずつ発展していると思うので、青少年スポーツセンターをもっと活用しながら、宿泊客の増加へとつながることを期待したい。

【採択結果】

合計点 77.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合計		77.3

9月22日審査結果（16事業のうち8事業）

採択とする事業 8事業
不採択とする事業 0事業

平成27年度第2回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成27年9月23日（水・祝）

午前9時～午後3時50分

場 所：市民参画センター グループ活動室

出席者：審査委員 清藤委員長、土井委員、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、兼平委員、西川委員、花松委員、佐藤委員、川村委員、齋藤（紀）委員、前田委員、宮川委員、高森委員、木田委員
市民協働政策課 三上補佐、櫻庭主幹、對馬係長、長谷川主査、阿保主事
成田主事、神主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

9月22日に引き続き審査

《審査内容》

●8：ナインナイトプロジェクト「どん舞」／弘前ナインナイト実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：イベント当日にアルコールを提供する予定だが、それによって起こりうるトラブルを回避するための工夫は考えているか。

A：現時点では、年齢確認を徹底した上でアルコールを提供する予定だが、確定ではないので、イベントまでにアルコールを提供するかどうか検討したい。場合によっては、ノンアルコールドリンクのみの提供となることも考えられる。

Q：このイベントの宣伝や告知方法について教えていただきたい。

A：フライヤーやポスターは、弘前大学の学生や、近隣の商店街へ配布する。また、イベントの趣旨を紹介する動画を作成し、Youtubeなどで配信しようと考えている。Youtubeだけではなく、FacebookなどのSNSへも共通の動画やフライヤーのデータを貼り付けることによって、同じイベントということを印象付けるようにしたい。

Q：今回のイベントと次回のイベントのつながりや、今後の展望などをお知らせいただきたい。

A：事業内容は確定していないが、ミーティングのノウハウを後輩に受け継ぐことで、将来性へつなげたいと考えている。今回のイベントはかたちは異なるが、昨年度Hiromaruが1%システムを活用して実施したことがきっかけになっており、手法は変わっても、学生が主体となるイベントを継続していきたい。

Q：若者向けのイベントと捉えられるが、年配の方も一緒に参加できるような工夫はある

か。

A：現段階ではまだ曲に反映されていないが、イベント当日は既存の盆踊りの音楽を流して、そこから新しい現代的な音楽に移行していこうと考えている。

【主な意見】

- ・4年生が卒業しても事業自体は続いていくように、きちんと下級生に引継ぎをしていただきたい。
- ・若者中心のイベントも魅力があるが、年配の人も参加することによって、アルコールの提供など、企画内容の懸念される部分が緩和されると思うので、子どもからお年寄りまでできるだけ多くの市民が参加できるようなイベントにしていただきたい。
- ・土手町のマンションに住んでいる人の中には、地域に関わりを持ちたくてもなかなか参加する機会がないという人もいると思うので、土手町の人に間に入ってもらいながら、住民に参加を呼び掛けてみてもいいと思う。

【採択結果】

合計点 70.5点 \geq 60.0点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員15名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.2
合計		70.5

●12：西弘×大鰐線ハロウィン&コスプレイベント

／西弘×大鰐線ハロウィン&コスプレイベント実行委員会

【質疑応答(抜粋)】

Q：事業の目的がいくつかあるので、目的の中心となる部分を教えてください。

A：1つめは、弘南鉄道大鰐線の利用機会を創出するために、電車に乗る目的づくりや、理由づくりをすることである。2つめは、沿線の住民の方や市民の方に、大鰐線の必要性や存在意義を見出してもらうきっかけづくりをすることであり、事業の一番の目的である。

Q:大鰐線利用機会の創出を目的としていながら、駐車場を用意する理由を教えてください。

A:会場である大沢駅には駐車場が無く、バスと電車を乗り継いで行く方法は大変だと思うので、小栗山駅と石川駅に臨時駐車場を設置することで沿線までは自家用車で来てもらい、あとは電車に乗って会場を目指してもらおうというかたちを作ることができる。

Q:イベント参加者に対して、特別料金で乗車できるようなことは考えられるか。

A:参加者には、切符を買う・乗る・降りるという経験をしてもらいたいので、現段階では特別料金にする予定はないが、会場に来た人やコスプレしている人に、帰りのフリー切符を渡すなど、片道だけでも特別料金にするようなかたちは、一つの方法として検討していきたい。

Q:チラシ作成に当たり、県外の業者を利用する理由を教えてください。

A:将来的には市内の業者を利用していきたいと考えている。今回は、実証実験の意味が強く、また自己資金なども特にないため、できる限り安い業者を利用することとした。

【主な意見】

- ・弘南鉄道大鰐線は、弘前と大鰐をつなぐ大事な路線なので、弘前の特徴の一つとして存続させていくためにも、今は、あの手この手と試してみなければならぬ時期だと思う。
- ・電車を利用する機会を増やすことは賛成である。利用者や地域住民は、大鰐線存続のために一生懸命考えているので、当事者である弘南鉄道も一緒に頑張っていたきたい。
- ・ハロウィンのようなイベントを利用してでも、電車に乗る機会を創出していかねばいけないと思う。

【採択結果】

合計点 63.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.0
合計		63.2

● 5 : 「グッド・トイ 2015 in ひろさき」の開催／青森グッド・トイ委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 前回と今回の違いは何か教えていただきたい。

A : 今回は、日本グッド・トイ委員会を選んだグッド・トイのほかに、団体の趣旨に賛同してもらった団体からも、おもちゃを無料で貸し出ししていただく。子どもだけでなく、高齢者や認知症の人にも木のおもちゃで遊ぶ刺激が有効であることから、今年の講演会では、「生涯木育」の理念を前面に打ち出し、ウッドスタートからウッドエンドをテーマに講演していただく。

Q : この事業を弘前で行うことの強みがあれば教えていただきたい。

A : 早い時期から子育て支援を行っている人や、おもちゃをコミュニケーションツールとして、可能性を広げようという視点を持っている木工業の関係者がメンバーにおり、一緒に活動してくれるボランティアがいる。今回の事業がうまくいけば、ほかの場所でも展開していく可能性は十分にあると考えている。

Q : 講演の講師を山口県から呼ぶ理由を教えていただきたい。

A : 講師は、日本の高齢者施設で初めて、リハビリを受ける人が自分でリハビリのメニューを選択するシステムを取り、画期的な成果を挙げている。この施設に通っている方の要介護度が下がった成果など、ほかの人にはできないような話をしていただきたいと考えている。

Q : 今回は、講演に対する経費が大きな割合を占めているの点が大変目立つが、今後事業を継続していく際、どのような内容で事業を実施していこうと考えているか教えていただ

きたい。

A：実際におもちゃを手にとってもらって、良いものの価値を理解してもらえりような活動を継続していきたいと考えている。また、日本グッド・トイ委員会では、ウッドスタートということで、赤ちゃんに、生まれた土地の木を使って作ったおもちゃを提供する事業も行っていることから、ウッドスタートに関心を持ってもらえりような活動もしていきたいと考えている。

【主な意見】

- ・ 1日のスケジュールがぎっしりで、子どもが3階の広場で遊んでいると講演会を聞くことができないという人もいる可能性があり、もったいないと感じた。
- ・ 将来的には、子どもたちがおもちゃを利用し、他者とコミュニケーションをとりながら様々なルールを学んでいくようなところまで活動を広げ、子どもたちが集まる場で青森県産のおもちゃが使われるような働きかけもしていただきたい。
- ・ 木のおもちゃには、子ども同士や親子のコミュニケーションが生まれるような力を持っていると思う。会場がヒロロで、たくさんの人の目に触れる場所なので、値段が高くて、木のおもちゃにはそれだけの価値があるということをアピールしていただきたい。

【採択結果】

合計点 67.3 点 \geq 60.0 点 ⇒ 採択（申請額どおり）

※ 審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.1
合計		67.3

- 9：講演会：自分の進路は自分で決めよう！～高校卒業後の自分の将来について考えるヒント
／特定非営利活動法人青森県就職支援チーム

【質疑応答（抜粋）】

Q：学校で実施している進路指導と、この事業の違いを具体的に教えていただきたい。

A：高校の講師の選定はわからないが、今回依頼した講師は、実際に大学などで就職支援をしている方なので、いろいろな職種を知った上での情報もお話いただけると考えている。

Q：対象を、高校1、2年生とした理由を教えてください。

A：高校3年生に対してでも、進路の話を聞いてもらえないようなこともあるが、近年は特に早期離職する人も多いので、高校1、2年生とその親を対象にすることで、もっと親子で子どもの就職について話し合う場を増やしたいという思いから、対象を1、2年生としている。

Q：ハローワークや県教育委員会などにこの事業について打診をすることは考えられるか。

A：弘前市の子どもたちの将来のために、市民として少しでも還元したいと考えているため、弘前市の補助金を使って事業を実施したいと思っている。

【主な意見】

- ・弘前市の子どもたちのために事業を実施したいという強い思いは理解するが、本事業の必要性や市民に還元される効果が明確に示されていないことから、より有効な方法を検討していただきたい。
- ・すでに貴団体が実施している、弘前市在住の人を講師として、いろんな可能性があるという内容の講演会のほうが、参加しやすいと思う。
- ・就職することだけでなく、就職後の生活をきちんと設計して就職活動をしてもらうためや、就職に対する親子間での認識を合わせるためにも、早い時期から話し合うきっかけを作るための事業と捉えれば、理解できる。

【採択結果】

合計点 55.6 点 ≤ 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	4.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	4.7
合 計		55.6

● 7 : 「第2回弘前城Q&R」開催事業／弘前城Q&R実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 主に学生ボランティアを募集するということだが、市内の6つの大学の連携はどのように考えているか。

A : まず、弘前大学と弘前学院大学の学生が運営スタッフとして携わっている。その他の4大学については、チラシやポスターの掲示をお願いしてボランティアを募りたいと考えている。

Q : 参加者の人数はどのように決めているのか。

A : どの程度まで許容できるのかは実施してみないとわからない部分がある。ボランティアスタッフの人数配分もあるので、今回は99名で実施し、その様子を見て、次年度以降の人数を考えていきたい。

Q : 開催時期を冬季にした理由を教えてください。

A : 夏場だと、参加者が弘前公園の有料区域と無料区域を簡単に行き来できるような体制を取るためには、安全管理の面などで問題もあるので、本丸の無料期間である11月23日から、リハーサル等にかかる日数を考えて開催日を決定した。前回開催は、昨年11月30日だったが、気温も温かく、天気が良かった。

【主な意見】

・イベントの認知度だけでなく、クイズの弘前に関するネタを工夫することで、参加者の地域に関する認知度が上がるようになれば、とても面白いと思う。

・一般的なイベントでは、運営側と参加者という感じが強いが、この事業に関しては、ボランティアを集めて準備する段階から始まっており、人材育成を目的としている部分も評

価できる。

・子どもや家族連れで参加することで、運営側に回りたいという動機づけにもなると思うので、中学生や親子の部など、参加対象を広げることも考えていただきたい。

【採択結果】

合計点 83.0 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.3
合計		83.0

● 13 : 三浦雅士文化講演会「現代文学における弘前」(仮称) / 弘前ペンクラブ

【質疑応答 (抜粋)】

Q : ペンクラブの独自事業とせず、まちづくり 1%システムを活用して実施する理由を教えてください。

A : ペンクラブの力だけでは、会員以外の参加が少なく、規模が小さい事業が多かったことから、今回は、よりたくさんの市民に文学について聞いてもらいたいということが一番にある。

Q : 今回の事業を、普段文学に接しない人たちが、文学に接して、改めて文学の意味や難しさ、弘前の美しさなどを考える機会にするための工夫があれば教えてください。

A : 芥川賞を受賞した又吉直樹さんをきっかけに、太宰の作品を読む若者が増えたので、太宰との関わりも講演に交えていきたいと考えている。また、チラシを作成した上で高校などへ送付し、若い方への働きかけもしていく。

Q : 事業のステップアップをする上で、参加者の要望を拾うような仕組みはあるか。

A : 毎回、講演会を実施するたびにアンケートを取っている。集計後は、定期的に発行し

ているペンクラブニュースに掲載するとともに、次回以降への要望として参考になっている。

【主な意見】

- ・高校時代のことも含めてお話いただくことで、三浦雅士さんのような、教師の立場からは優良とは言いきれない高校生が、多くの才能を持っているということも感じてもらいたいため、ぜひ高校生など若い人に参加していただきたい。
- ・全高校に働きかけて、多くの高校生に周知していただきたい。
- ・普段から文学に接しないような人たちにとって、難しい話になりそうなので、文学は親しみやすいということを伝えるような内容になればいいと思う。

【採択結果】

合計点 72.3 点 \geq 60.0 点

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.3
合計		72.3

● 3 : 豊田小学校通学路排雪事業／豊田小学校父母と教師の会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 今回の補助金申請額を、昨年の半分ほどに減らすことができた理由を教えてください。

A : 昨年までは、コンパネやトランシーバーなどを購入したため、今年の2倍ほどの金額がかかっている。今回計上した経費は主にガソリン代や除雪機の使用料、雪置き場整備用の砂利代となっている。

Q : ほかの学区にも参考にしてもらいたい事業だが、豊田小学区以外にこのような取り組みが始まった例はあるか。

A : 現段階では耳にしていない。市内の中心部にある学区は、比較的頻繁に除雪が入り、PTAで除雪する必要がないかもしれない。また豊田小学区のように、雪置き場を確保し

たり、農村部のように軽トラックを確保することが難しいのかもしれない。

Q：今回が3回目の申請になるが、町会と連携して事業を進めていく話し合いなどはできないのか教えていただきたい。

A：町会で除雪の機械が整備されていれば、事業を行いやすいと思うため、今後、町会の動きも考慮しながら、活動を広げていければとは思っている。

【主な意見】

- ・市民にアンケートを取ると、一番の問題は「雪」という結果になっているのに、このような除雪事業がなかなか申請されないのは、自分のところだけで精いっぱいという人が多いからだと思うので、このような事業を行っていること自体、すごいと感じる。
- ・同じ市内でも、地域によって取り組みに差があると思うので、それぞれの地域の特性を考えて、申請事業を考えていかなければならないと思う。
- ・教育委員会や町会と、今後の協力について話し合ってみていただきたい。
- ・3年継続してきたことで協力者が増え、地域内での波及効果は十分にあったと思う。今後は、PTA同士の集まりなどで取り組みやノウハウを発表するなど、啓発活動にも結び付けていただきたい。

【採択結果】

合計点 69.7 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.6
合 計		69.7

- 4：津軽の資源は津軽で活かすプロジェクト／特定非営利活動法人もったいないつがるの会
【質疑応答（抜粋）】

Q：今回作った燻炭の分与方法を教えていただきたい。

A：まずは、町会連合会を通じて、花いっぱい運動や市民農園などを実施している町会で利用していただきたいと考えている。町会だけでは余るようであれば、社協を通じて、必要としている福祉農園へ譲りたい。

Q：今回の事業はモデル的に実施し、最終的には燻炭器での燻炭製造を広く促進するということだが、その促し方と見通しを教えていただきたい。

A：燻炭の製造は、高齢者でもできる作業だということを発信していくことで、燻炭製造が広まればいいと考えている。また、障がい者施設やJAを通じて見学者も受け入れたい。

【主な意見】

- ・本来は、ゴミとして焼却されるもみ殻を活用したもみ殻燻炭作りが、地産地消やゴミ焼却費減少につなげることを、広く周知するモデル事業であることは理解できるが、手間暇がかかり、燻炭作りをする人が減っていることや、施設を確保しないと事業を実施できないことを考えると、事業の波及性や将来性に疑問が残る。

【採択結果】

合計点 54.9 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 15 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.0
合計		54.9

9月23日審査結果（16事業のうち8事業）

採択とする事業	6事業
不採択とする事業	2事業

3次募集事業の審査結果（16事業） 9月22日～23日審査合計

採択とする事業	14事業
不採択とする事業	2事業